

A-164 福山市における栄養摂取状況等に関する意識と実態 (第12報)

— 家族の生活基盤と意識との関連性(分析①) —

福山市立女短大 ○土屋房江 奥山清美 加納三千子 津川 淳
 三谷璋子 倉田美恵 鈴木雅子

目的 (第10報に同じ)

方法 家族の生活基盤と社会意識, 生活の安全性への認識及び実態との関連性について検討した。

結果 社会意識の価値志向では, (ブ)-{中}- $\textcircled{\text{ハ}}$, (ブ)-{高}- $\textcircled{\text{ハ}}$ に生きかりにおける健康志向が少なく, 革新的傾向がみられた。逆に权威主義的傾向がみられたのは, (自)-{高}- $\textcircled{\text{ア}}$, (ブ)-{高}- $\textcircled{\text{ア}}$, (ホ)-{大}- $\textcircled{\text{エ}}$ であった。健康, 食生活の認識においては, (ブ)-{中}, (ブ)-{高}では $\textcircled{\text{ア}} < \textcircled{\text{ハ}} < \textcircled{\text{無}}$ の順に情報への関心が高く, 全体として, {高}より{中}の方がより関心が高かった。食品公害への不安のパターンは同様であるが逆に{中}より{高}の方がより不安を感じてゐた。食生活における価値志向においても, ほぼ同様なことかゝりえた。食品添加物に対する認識は $\textcircled{\text{ア}} < \textcircled{\text{ハ}} < \textcircled{\text{無}}$, {中} < {高}の順に高かった。自然食品への認識と利用度は(ブ), $\textcircled{\text{ハ}}$ に高い傾向がみられた。合成洗剤の認識と利用については不安を感じながらも使っているのが(ブ)-{高}- $\textcircled{\text{ハ}}$ であった。